

令和 6 年 7 月 11 日
港湾局 海洋・環境課

令和 6 年能登半島地震で発生した災害廃棄物の海上輸送による 広域処理が始まりました

令和 6 年能登半島地震により被害を受けた家屋等の解体工事の本格化に伴い、円滑な災害廃棄物処理を進めるため、7 月 11 日より、石川県の宇出津港から新潟県の姫川港（リサイクルポート）への海上輸送による広域処理が始まりました。

石川県では、令和 6 年能登半島地震により被害を受けた家屋等の解体工事の本格化に伴い、円滑な災害廃棄物処理を進めるため、県外での広域処理も必要となっています。この度、7 月 11 日より、以下のとおり海上輸送による広域処理が始まりましたので、お知らせ致します。

今後、宇出津港に加え飯田港からも海上輸送による広域処理が実施される予定であり、港湾においても被災地の早期の復旧・復興に貢献してまいります。

開始日：令和 6 年 7 月 11 日（木）

輸送した災害廃棄物：種類 木くず（能登町の公費解体で発生した解体ごみ）
容量 2,000m³

輸送ルート：宇出津港（石川県鳳珠郡能登町）～姫川港（新潟県糸魚川市）

処理先：糸魚川市内の中間処理施設（カネヨ運輸株式会社）において破碎後、同市内のセメント製造施設（デンカ株式会社）の燃料として使用

【備考】宇出津港及び飯田港の機能回復に係る国土交通省の取組

宇出津港及び飯田港は、地震の影響により大きな被害を受けましたが、本年 1 月 2 日から港湾法第 55 条の 3 の 3 の規定に基づき、港湾管理者である石川県の要請により国が港湾施設の管理を実施しており、管理期間中に国が実施した岸壁や物揚場の応急措置により、船舶が利用できる状態まで機能を回復しました。



荷積みの様子（宇出津港）



入港の様子（姫川港）



荷下ろしの様子（姫川港）

<問い合わせ先>

港湾局 海洋・環境課 三谷、末廣

TEL: 03-5253-8111 (内線 46674, 46673) (直通) 03-5253-8685

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 同時発表

いのちとくらしをまもる
防災減災

令和 5 年 1 月 20 日

港湾局海岸・防災課

港湾の被災状況把握に JAXA の衛星画像を活用

国土交通省港湾局（以下、港湾局）と国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下、JAXA）は、1 月 5 日（木）に人工衛星画像データ（以下、衛星画像データ）の活用に関する協定を締結しました。今後、災害が発生した場合はこの取組を活用して、港湾施設の被害状況を迅速に把握し、港湾機能の早期復旧に努めて参ります。

地震・風水害等の大規模災害発生時、港湾では緊急支援物資の受入やサプライチェーン維持の観点から港湾機能の維持が必要となる一方、面的な広がりを持つ港湾は、被災状況の把握に時間を要するだけでなく、津波・高潮警報等の発令等により、現地調査に着手できない恐れがあります。

これらの課題に対応するため、衛星画像データを効果的に活用して、現地調査ができない場合においても港湾施設の被災状況を迅速に把握することができる体制の構築に向けて、港湾局と JAXA は衛星画像データの活用に関する協定を締結しました。活用される人工衛星は、現在運用中の陸域観測技術衛星 2 号「だいち 2 号」（ALOS-2）だけでなく、今後打上げが予定されている先進光学衛星「だいち 3 号」（ALOS-3）や先進レーダ衛星「だいち 4 号」（ALOS-4）も含まれます。

本協定により、港湾局と JAXA は、災害発生時の緊急観測のための連絡体制を整備するとともに港湾の被災状況把握を対象とした、衛星画像データの活用を推進するためのワーキンググループを設置し、衛星画像データの効果的な活用方法の検討を行います。この取組により、衛星画像データを活用した迅速かつ効果的な災害対応を可能とし、緊急物流ネットワークの確保や港湾機能の早期復旧による社会経済活動への影響を最小化することを目指します。



先進光学衛星「だいち 3 号」（ALOS-3）

「だいち」初号機の光学画像による港湾の状況把握
(H23 東日本大震災 防波堤の損壊を確認)

【お問い合わせ先】

国土交通省 港湾局 海岸・防災課 災害対策室 福元、大橋

TEL : 03-5253-8111 (内線 46751、46765)、03-5253-8689 (直通)